

小児科診療 UP-to-DATE

2023年1月10日放送

ファシリテイドッグの小児病棟での役割

国立成育医療研究センター
 認定 NPO 法人シャイン・オン・キッズ
 ファシリテイドッグ・ハンドラー 小児看護専門看護師 権守 礼美

ファシリテイドッグとは

ファシリテイドッグの小児病棟での役割 についてお話しさせていただきます。

「ファシリテイドッグ」。皆様ご存じでしょうか。日本では、まだ耳慣れず「セラピードッグ」をイメージする方が多くいらっしゃるかもしれません。

ファシリテイドッグとは、専門的な訓練を受け、facility（施設）の意味通り、毎日同じ病院や施設に勤務する犬のことです。活動は、時々きて触れ合う訪問型ではなく、一つの施設で専属で活動する常勤型です。

ファシリテイドッグのハンドラーは医療者で、当法人では、現在は全員看護師が務めております。育成は、専属のドッグトレーナーが担い、犬はペットではなく、遺伝的に血統を厳密にスクリーニングしており、さらに、選ばれた犬たちは、幼少期から専門的なトレーニングで育てています。米国を中心に、医療施設やリハビリテーション施設、特別支援学級、裁判所などで活躍しています。

ファシリテイドッグとは

※専門的な訓練を受け、ある特定の施設 (facility) で専属で働く犬のこと
 ※医療施設や特別支援学級、裁判所などで活躍

	セラピードッグ	ファシリテイドッグ
形態	訪問型	常勤型
ハンドラー	ボランティア	専門職(医療者)
育成者	ボランティア	ドッグトレーナー
生まれ	ペット	気質面、健康面をスクリーニング
育ち	一般的なしつけ <small>獣医学・動物行動学に基づく認定・参加基準のクリア</small>	専門的なトレーニング

ファシリテイドッグの役割

私たちが提供するファシリテイドッグのプログラムは、動物介在療法の一つで、犬を介在させた医療的取り組みです。日本では、私が所属する認定 NPO 法人シャイン・オン・キッズから 4

チームが活動しており、2010年に静岡県立こども病院、2012年に神奈川県立こども医療センター、2019年に東京都立小児総合医療センター、2021年に国立成育医療研究センターが導入しています。ファシリテッドッグとハンドラーがペアを組み、医療チームの一員として働くことで、単なる患者との触れ合いの活動にとどまらず、積極的に治療への介入を可能としています。

動物介在療法 Animal-assisted therapy

❖医療従事者が指導・提供する、計画的な治療介入で、患者・家族や多職種と共に、特定の明確な目標に向けて行う活動



左から
 ・神奈川県立こども医療センター（アニー）
 ・国立成育医療研究センター（マサ）
 ・静岡県立こども病院（タイ）
 ・東京都立小児総合医療センター（アイビー）
 写真：認定NPO法人シャイン・オン・キッズ提供

では、ファシリテッドッグは小児病棟においてどのような役割を担っているのでしょうか。ファシリテッドッグは、医療従事者のハンドラーとチームを組むことで、医療チームの一員として専門職として活動しますし、入院中の子どもの友達のような存在になることもあれば、家族のようにもなり、常に「寄り添う」ができる存在です。

それが、入院中においても、癒しの提供や成長発達の促進、社会的生活習慣を獲得する環境を提供し、さらには、入院生活や治療中の患者家族をエンパワーメントし、疼痛緩和といった治療効果も導き出しています。

ファシリテッドッグの小児病棟での役割

ファシリテッドッグは

- ❖医療専門職として
- ❖友達にもなり
- ❖家族のように

寄り添うことができる存在



- ❖癒しの提供
- ❖成長発達促進
- ❖社会的な生活習慣の獲得
- ❖入院生活や治療中の患者家族のエンパワーメント
- ❖疼痛（苦痛）緩和

実際の介入

では、ファシリテッドッグの介入を実際にご紹介します。

一つは、触れ合いや遊びといった活動です。犬が好きな子どもは、ファシリテッドッグを撫でたり遊ぶことで、喜びや癒しを感じます。撫でるのはちょっと勇気がいるけど、近くにはいて欲しいという子どももいます。触れ合いや遊びの中では、医療従事者であるハンドラーが子どもの発達段階や病状を踏まえながら介入します。例えば、幼児期の子どもであれば、関心があるものについての自発性や積極性が形成される段階であり、ごっこ遊びにも夢中になります。ファシリテッドッグと触れ合うことができれば、ごっこ遊びを取り入れ、距離をとったほうがよければ、ファシリテッドッグのおもちゃに興味を示し遊ぶことができるように環境を整えます。保育士とも協働して関わっていくことも多

ファシリテッドッグの主な介入内容

触れ合いや遊び



信頼関係の構築 → 動物介在療法へつながる

くあり、入院環境における QOL を向上させ、ファシリティドッグとの関わりが、他者とのコミュニケーションを増やすきっかけにもなります。歯磨きを一緒にするなど、日常の中で、子どもが頑張っていることをファシリティドッグが見守り応援することもあります。このように毎回同じファシリティドッグと共に時間を過ごすことで、子どもたちとのより強い信頼関係が構築されていきます。そして、信頼関係ができているからこそ、より踏み込んだ動物介在療法が実現可能となります。

具体例を紹介します。小児がんをはじめとした、難病の子どもたちは、採血や末梢静脈路の確保、骨髄穿刺や髄腔内投与、そして手術など、多くの検査や処置を経験します。入院で両親と過ごす時間も限られる中、病と闘う不安や恐怖は計り知れないものです。

しかし、ファシリティドッグとの信頼関係が構築された子どもたちは、検査や処置、手術にファシリティドッグがそばにいてくれたら「頑張れる」と話し、自らの足で歩いて処置室や手術室へ向かうことができます。ご家族も、子どもが前向きに検査や処置、手術に臨む姿が励みになると言います。これらの検査や治療の同伴は、ハンドラーが医療従事者であるからこそ可能となる介入で、患者の状況だけでなく、処置等のさまざまな環境のアセスメントをし、医師や看護師、チャイルド・ライフ・スペシャリストらと協働して、計画的に介入します。特に、小児患者の疼痛緩和については、動物介在療法が有効であることが、研究論文でも示されています。

ファシリティドッグの訪問で、「ファシリティドッグと散歩したい」と、離床が促せることも多くあります。

ファシリティドッグの参加により、効果的にリハビリテーションを促すことができそうとアセスメントできれば、理学療法士や作業療法士と取り組む課題を共有しながら、リハビリテーションを見守るだけでなく、ファシリティドッグと共に楽しみながら課題に取り組めるよう計画し、実施します。

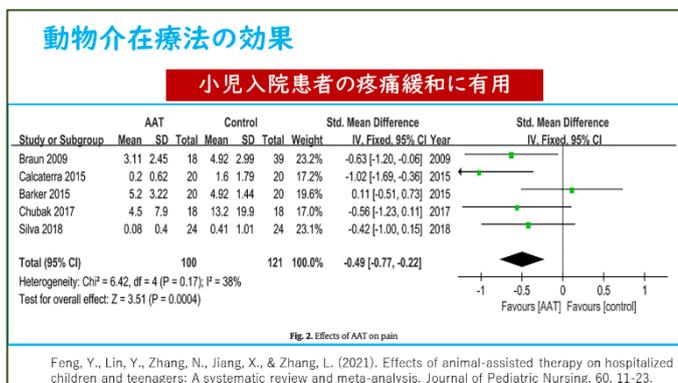
ファシリティドッグの主な介入内容

検査や治療の同伴

✦手術室への同伴

✦末梢静脈路確保時の寄り添い

✦超音波検査中の添い寝



ファシリティドッグの主な介入内容

リハビリテーション

✦病棟内散歩

✦作業療法

✦理学療法

例えば、幼児期の子どもとの輪投げ。歩く距離を伸ばしていく目標に合わせて、「子どもが輪を入れに行き、マサがそれを回収する」リレーのように遊びながら、リハを進めていきます。ステップに上がるといった踏み台昇降のリハビリテーションも、ファシリテイドッグと同じようにステップに上がることで、一緒に楽しく取り組むことができます。

ファシリテイドッグの活動は、緩和ケアの活動とも言えます。実際、活動中の4頭は、各施設の緩和ケアチームにも所属しています。終末期ケアにおいては、子どもと家族の願いや選択を尊重し、日常のケアの中での子どもと家族のよりよい体験の積み重ねが大切です。ハンドラーが、子どもと家族が置かれた状況を把握しながら、子どもと家族、時には医療者とのコミュニケーションを円滑にしながら、穏やかで、子どもとその家族らしい時間を少なからず実現することを経験しています。

ファシリテイドッグの主な介入内容

終末期ケア



穏やかで、子どもと家族らしい時間を提供

国際的な理念「5つの自由」

最後に、これらのファシリテイドッグの活動においては、動物福祉に配慮できることが前提となっています。例えば国際的な理念「5つの自由」では、①飢えや渇きからの自由、②不快からの自由 ③痛みや外傷、病気からの自由 ④本来の行動をする自由、⑤恐怖や苦痛からの自由が提唱されています。これに基づき、ファシリテイドッグも週末などは、自然豊かな場所での水遊びをしたり、犬同士で遊んだりするなど、犬らしく過ごす時間を大切にしています。犬の心身の欲求を満たし、ポジティブトレーニングによって、望ましい行動を楽しみながら学習させることが、人との信頼関係を築き、犬の自制心と自信を養う育成をしています。ハンドラーは、犬のパートナーとして、心身の健康を守り、ポジティブトレーニングに基づいた管理を継続することで、ファシリテイドッグは不特定多数の人を相手とする病院の中であっても、安心してファシリテイドッグのパフォーマンスを発揮することが可能となります。

動物福祉に配慮した環境づくりの工夫によって実現



- ※飢えや渇きからの自由
- ※不快からの自由
- ※痛みや外傷、病気からの自由
- ※本来の行動をする自由
- ※恐怖や苦痛からの自由

ファシリテイドッグは、入院生活に変化をもたらし、ごく当たり前の日常生活へと近づけてくれる存在で、子どもたちと家族が持つ本来の力を引き出してくれます。犬が持つ力に魅了される人は少なくありません。しかし、このような小児医療にとっては欠かせないファシリテイドッグ

の活動については、診療報酬で賄うことができず、導入病院の業務委託費や、企業・個人の支援による寄附で成り立っているのが現状です。

私は、小児看護専門看護師としても、ファシリテイドッグと共に、子どもたちと家族が思い描く人生に近づけられるよう、未来を見据えてケアを提供できればと考えています。

「小児科診療 UP-to-DATE」

<https://www.radionikkei.jp/uptodate/>